

平成30年1月17日

大町市長 牛 越 徹 様

大町市総合計画審議会
会長 岑 村 修 司

大町市第4次総合計画後期基本計画の進行管理について（答申）

平成29年10月17日付で諮問を受けました大町市第4次総合計画後期基本計画の進行管理を行うため、市が実施した内部評価に基づき、本審議会による評価（外部評価）を実施した結果について、別添のとおり取りまとめましたので答申します。

今後、本審議会に取りまとめた意見について、今年度スタートした「大町市第5次総合計画」における基本構想に定める将来像「未来を育む ひとが輝く 信濃おおまち」の実現のため、予算編成等に反映をいただくとともに、現在実施している施策や事務事業の効率性の向上、実施手法の改善など質の高い行政サービスの提供に向け最善の努力をされるよう要望します。

1. 経緯

大町市総合計画審議会（以下「審議会」という。）は、平成29年10月17日付けで市から諮問を受けた「大町市第4次総合計画後期基本計画」の進行管理について、4回にわたり審議会を開催し審議を行った。

2. 委員構成

会 長	岑村 修司	識見を有する者
副会長	伊藤 彰一	大町商工会議所
委 員	小野壽太郎	大北医師会
委 員	南澤 靖	大町市社会福祉協議会
委 員	藤井 一男	大町市教育委員会
委 員	仁科 光晴	大町市連合自治会
委 員	和田 雅子	大北農業協同組合
委 員	遠藤 高弘	大町市観光協会
委 員	内川 純子	大町市女性団体連絡協議会
委 員	内山 彰博	大町青年会議所
委 員	山本 史	大北地区労働者福祉協議会
委 員	前川 浩一	識見を有する者
委 員	大日方三郎	公募委員
委 員	平林 操	公募委員

3. 審議経過

平成29年

10月17日	第1回審議会	
	第4次総合計画後期基本計画	行政評価
11月 7日	第2回審議会	
	第4次総合計画後期基本計画	行政評価
12月15日	第3回審議会	
	第4次総合計画後期基本計画	行政評価

平成30年

1月 9日	第4回審議会	
	答申案の検討	
1月17日	答 申	

4. 審議会における意見

第1章 市民に、より身近な市政のまち

施策目標2 地域の一体感の早期確立

- ・過疎地域における定住促進住宅の建設については、希望者のニーズや立地条件、建設時期が大変重要になる。移住希望者は起業を想定しているケースもあるため、店舗併用住宅の斡旋等も含め、様々な観点により検討を進めていただきたい。

施策目標3 市民参加のための環境整備の推進

- ・公募委員は、働いていると会議等への参加が難しく、同じ人が幾つも兼ねているケースが見受けられる。幅広い人材から市政に対する意見を聞く必要があるため、参加しやすい環境づくりについて積極的に検討いただきたい。

施策目標4 市民主役のコミュニティの振興

- ・八坂・美麻地区における地域づくり協議会の活動は大変活発であり、他の模範となる。活動を周知することで他の地域の活性化へと繋がっていくのではないかと。また、集落においては、少子高齢化が進み、地域における課題の解決が困難となってきている。役員の負担軽減や自主財源の確保、集落のNPO化などを含め、地域が自立に向けて積極的な活動が可能となるよう支援いただきたい。

施策目標8 地方分権に対応するまち

- ・今後の公共施設の在り方については、少子高齢化や人口減少に伴い公共施設総合管理計画が大変重要な位置付けになる。今後個別計画の策定に当たっては、施設の類型ごとに優先順位を明確にするなど、実効性のある計画としていただきたい。

第2章 活力あふれる豊かなまち

施策目標7 競争力のある中小企業の育成

- ・アンテナショップは外部へのアピールが重要である。販売目的だけでなく、市の魅力をPRする場に特化してはどうか。情報発信の場として、市の知名度を向上させる方策や販路拡大に向けた抜本的な見直しが必要な時期にあるものと考え、施設の立地を含めて検討いただきたい。
- ・市の認知度を向上させるために、認知度の上位に位置する市町村ではどのようなブランド戦略が行われているか、比較研究することによりヒントが見つかるものと考え。ブランド力の向上に向け、関係事業者等との連携を強化して取り組んでいただきたい。

第3章 安心・安全なまち

施策目標5 障がい者福祉の推進

- ・障がい者は運動不足となりがちであるため、公民館事業に位置付けるなど、地域と連携しながら積極的に運動する機会を提供していただきたい。
- ・障がい者の人権が障害のない者と同じように保障され、教育や就業の際、社会生活に平等に参加できるよう、障害の特性や困りごとに合わせて行われる「合理的配慮」という言葉が使われ始めている。一般にはまだ認知されていない状況にあり、幅広く地域に周知していただきたい。

施策目標8 ユニバーサルデザイン社会の形成

- ・信濃大町駅にはエレベーターが設置されていないが、現在は、外国人観光客も増加し、大きな荷物を持ち運ぶ人も多い。公共施設における、障がい者や高齢者等にも配慮した環境整備に向け、JRと積極的な意見交換をお願いしたい。

第4章 快適な生活基盤のあるまち

施策目標5 暮らしを支える生活道路の整備

- ・道路、河川の環境保全活動については、高齢化が進み徐々に活動が困難な状況となっている。民間事業者へ作業を依頼するなど、負担を軽減するような工夫ができないか検討を進めていただきたい。

施策目標10 適正な廃棄物処理対策の推進

- ・きれいな街に住みたいという思いは市民共通の願いであり、将来を担う子供達にもきれいな街を残してあげたいという気持ちを持っている。豊かな自然に配慮した適正な廃棄物処理対策について引き続き努力いただきたい。

第5章 潤いのあるまち

施策目標2 豊かな自然との共生

- ・開発を抑制しながら、自然エネルギーの導入を図っていくことは相反する課題である。景観保護や環境保全の観点から、太陽光発電施設を含めた大規模開発について、法令等の規制がかからない部分への対応として、早急に大町市独自のルールづくりを進めていただきたい。

施策目標4 安全で快適な生活環境の維持と向上

- ・市内には水洗化されていない公衆トイレが未だに点在しており、観光客が敬遠するケースも見受けられる。水洗化を進めていただくとともに、自治会等、地域へ管理を依頼している場合は、負担が大きくなるような配慮をお願いしたい。

第6章 人を育むまち

施策目標 1 豊かな人生を送れる生涯学習の推進

- ・利用率の低い施設については、公共施設総合管理計画に基づき統合や廃止を含め整理していく時代へと進んでいく。積極的に施設の効率的、効果的な見直しをお願いしたい。
- ・市文化祭やサークル活動の展示会における作品数が減少していると聞く。学校とも連携して展示を充実してはどうか。また子供たちが日頃行ってきた学習の成果を発表する場を拡大すべきだと考えるため、様々な年齢層が集まる「まちづくりフォーラム」を活用するなど実施方法について工夫いただきたい。

5. まとめ

市長から諮問を受けた「第4次総合計画後期基本計画」の進行管理について、これまで本審議会において評価未済となっていた施策に対し、市から提出された内部評価票を基に平成29年10月17日から計4回にわたり外部評価を実施し、審議会の意見として取りまとめました。

審議会における意見、提言を市の施策や事務事業の改善、予算編成等に活用いただくことにより、市民の視点に立った効果的な行政サービスの充実が図られるよう期待します。